

今を輝く人に聞く

6

# まちひと ZOOM!!

**上** 杉まつりのメインイベントである「川中島合戦」。そこで音響を務めているのが加藤朋晃さんです。

加藤さんは大学卒業後、音響の仕事を中心に、全国各地を飛び回りました。「歌手と一緒に各地へ公演に行きました。一方、クラシック音楽ではバレリーナの着地まであと10cmのところまで音を出したり」と話す加藤さん。培った経験は、川中島合戦の演出にも活かされています。

昭和48年に誕生した歴史ある川中島合戦ですが、当初の音響はシンプルなものでした。そこで加藤さんは、音楽や効果音を加えた新しい台本を作り、スピーカーも演出に合わせて設置しました。「会場が昼間の屋外なので、照明で演出効果を上げることができませんから」と、音響を工夫することにしました。

もうすぐ川中島合戦。見どころを加藤さんに聞きました。「三献の儀で信玄公が盃を割るところと、三太刀七太刀の場面ですね。演者や馬に合わせて、早めに音を出すんです。音は遅れて届きま

上杉まつり川中島合戦の音響を担当

かとう ともあき  
**加藤 朋晃** さん(門東町1丁目)

[Profile] 北海道函館市出身。進学を機に本市へ。現在は伝国の杜で舞台の統括を行っている。1級舞台機構調整技能士の資格を持つ。

## 縁の下の力持ち 川中島合戦を熱くする



すから」。想定外のことがあるかもしれない状況は、経験を積んだ加藤さんでも緊張する場面だそうです。

「音響は、あくまで黒子です。空気のような存在で、観客に自然に聞こえたら大成功なんです」と加藤さん。心を熱くする川中島合戦は、目と耳が一体で楽しめるよう、磨かれた技術に支えられています。

季節は厳しかった冬の雪解けから咲き誇る春の桜花へと移り変わり、上杉まつりの開幕をもって、米沢はいよいよ春爛漫を迎えています。私は武禊式に関わって35年になります。数年前までは「軍師」宇佐美駿河守定勝の役で参加しておりました。現在は、武禊式保存会会長として後輩の活躍を見守っています。若い会員も増え頼もしい限りです。

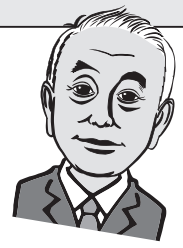
謙信公はその生涯において70余度ほど自ら陣頭に立つて

戦ったと伝えられています。出陣の度に武禊式と称する儀式を行い、神仏に代わって不正不義を討つという強い信念で戦勝を祈願しました。祈願した護摩堂、毘沙門堂は春日山城本丸に隣接しており、武禊式も本丸で執り行われたそうです。その情景を想像するとき、米沢の武禊式も城址の周辺で行うことができないだろうかと考えます。駐車場の確保や砲術隊の安全等の課題もあります。上杉の城下町米沢」を感じる城址周辺の荘厳な出陣の儀式、かがり火のなかでの演出は、市民の皆さんはもとより、県内外からのお客様も、しばし戦国の世に誘うことができるのではないのでしょうか。

今年度は、東北中央自動車道が開通し、米沢もようやく高速道路ネットワークの仲間入りをします。観光を含め、交流人口の拡大に努めてまいります。

米沢市長 中川 勝

おしょうしな  
よねざわ



今月のはなし  
「上杉まつり武禊式」に思う